

値がでており、この時に山越え気流が発生していてもおかしくはないような状態であった事を示している。

これらの事を総合すると、この時には典型的なものとは言いがたいにしても、一応広戸風が吹いたと言っても良い状況であったと思われる。

4. 終わりに

山岳波動による山越え気流のときに、地上で発生する強風域の位置は、容易に想像されるようにロール雲とロール雲とのほぼ中間であるはずであり、今の場合風枕と写真1の雲Bとの間と言うことになり、それは第1図にみられるように日本原と一致し、一般的に広戸風による被害が多いとされてきた地域と一致する。これらの事は、写真1の列状雲は山岳波動に伴うロール雲と言って差し支えないように思える。

以上、写真と当時の気象状態の両方から検討した結果、写真1にみられる雲は広戸風に伴うロール雲であろうと言う結論になった。この事はまた、広戸風の成因は山岳波動によるものとの結論を支持するものである。

このようなロール雲の存在は、気象衛星 LANDSAT または MOS などからの映像で容易に確かめられるはずであるが、今回の事例については9月15日午前に現地上空を LANDSAT が通過しているがその画像からはロール雲の存在は見いだせなかった。広戸風が吹く時に、ち

ょうど衛星が上空を通過すると言う機会があれば、是非それも含めて検討してみたいし、今回の例で山岳波動であると言う可能性が高まったのでパイボール観測による上空の調査を実行しても、広戸風の成因についての知見が得られるであろう。

最後に、自記紙のコピーと共に種々のコメントを頂いた奈義町黒田貞太郎町長、鷹取聡室長、多くの情報を提供された前岡山地方気象台丸本台長及び英田郡作東町吉野小学校高山敬三校長、さらにこの研究のきっかけとなった写真1を提供した岡山大学教育学部4年生（当時）杉山義和君に感謝する。

引用文献

Atokinson, A.W., 1981: Meso-scale atmospheric circulation, Academic Press, NY., 35.
 大阪管区気象台, 1956: 広戸風総合調査報告, 1-58.
 Manley, G., 1945: The Helm wind of Crossfell, 1937-1939, Quart. Jour. R.M.S., 71, 197-203.
 佐橋 謙, 1985: 瀬戸内海上空の強風域について, 天気, 32, 33-40.
 Scorer, R.S., 1954: Theory of airflow over mountains III, Quart. Jour. R.M.S., 80, 417-429.
 志茂山貞二, 鈴木 斉, 1980: 岡山県の局地暴風, 広戸風に関する調査, 研究, 文部省科学研究費報告書, 1-211.

沖縄研究奨励賞推薦の応募について

- ・沖縄研究奨励賞（以下奨励賞）の推薦にあたっては奨励賞規定にもとづき実施します。
- ・推薦対象者（以下対象者）の年齢は原則として50歳以下とします。
- ・対象者がグループの場合はその1グループを1人とみなします。
- ・対象者の国籍または出身地などは問いません。
- ・対象となる研究は継続中のものでも結構です。
- ・応募の際は別紙「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」を使用して下さい（学会事務局にあります）。
- ・「推薦書」には推薦対象者の著書・論文およびその要旨を必ず添付して下さい（下記の要領で）。ただし返却のご要望には応じかねます。

1. 関連する代表的な論文5編以内、著書（編著）3冊以内を添付し、それぞれに簡潔な要旨（B5判、

横書で2枚以内）を付ける。論文等に要旨が付いている場合は、これをB5判の大きさにコピーして付けてもよい。

なお、要旨には論文（著書）名も忘れずに書いて下さい。

2. これまでの研究業績（著書・論文など）の一覧を添え、そのうち審査資料として添付したものに○印を付す。

3. 書式はいずれもB5判、横書とする。

・推薦の締切りは9月末日ですが、郵送の場合当日消印も有効と致します。

・その他推薦に関して疑問の点がありましたら、沖縄協会・調査広報課（Tel. 03-580-0641~4）までお問合せ下さい。